



千葉大学医学部ヨット部報

Vol.28 2016/7月吉日

はじめに

今年も連日厳しい暑さが続いておりますが、先生方におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。私たち千葉大学医学部ヨット部は、今年度も5月に新入生を6人迎え、今は江の島での合宿の期間に入っております。

夏の東医体を控え部員一同、優勝に向かって切磋琢磨しております。このように日々、海上で練習に打ち込めますのも、先生方の温かいご支援のおかげと部員一同感謝いたしております。

本報では、ヨット部 OB 会長山浦先生、部長清水先生のご挨拶、また千葉大学全学ヨット部の監督であり、我々医学部ヨット部の監督もしてくださっている斉藤威総監督のご挨拶、今年度入部した新入生の紹介、そして今年の夏の東医体レースメンバー挨拶をお届けいたします。

OB 会長挨拶 「オリンピックにおけるヨット競技」

OB会長 山浦 晶 (昭和40年卒)

いよいよ第31回オリンピック(リオデジャネイロ)が近づいてきた。2016年8月5日から21日の17日間にわたり熱戦が繰り上げられる。今年のヨット競技では、日本がもっともメダルに近いとされる470級で、男子松永・吉田組が、女子では吉田・吉岡組が選考のトップにいるようだ。2回目の東京オリンピックも2020年で遠くはない。

1回目の第18回東京オリンピック(1964)は私の医学部最終学年の年、即ち昭和39年10月10日から2週間開かれ、ヨットレースを観戦する機会に恵まれた。半世紀以上も昔のことで記憶もあいまいになったが、まだヨットレースへの関心は国際的にも国内でも高くなく、観戦機会への競争率はあまり高くなかったのだろう。微風の中の緊迫感のないレース風景を記憶している。5.5メートルクラスでノルウェー皇太子がスキッパーとして出場し、国王になられた後もヨットを通じた交流は続いていると聞く。

かつてまさにオリンピック・ヨットレースでのスター的存在であった“スタークラス”に乗る機会があったのは、昭和40年4月から始まった横須賀米国海軍病院でのインターン時代である。横須賀海軍基地には空母も出入りするが、楽しみのためのヨットハーバーもあり、私にヨットの経験

があると知って自由に楽しめた。他のインターンを誘って気軽に出かけたものである。さすがスタークラスになると、特徴あるフラットなハルとこれまた大きなセール、艇がブローに入る時の力強い加速、私どもがバランスをとろうとしてもほとんど効果がなかったのをおぼえている。我々にスタークラスを提供するなど、セーリングは欧米ではごく普通の楽しみであったようだ。

リオ・オリンピックでのヨット選手の活躍と、2回目の東京オリンピック 2020 運営の成功を思う日々である。

平成 28 年 6 月 10 日

エレン・マッカーサーの「ヨットでひらめいた循環型経済」を見て。

清水栄司 (平成 2 年卒)

皆さんは、NHK の e テレ (教育) で放送している「スーパープレゼンテーション」という 30 分番組をご存知でしょうか? TED (Technology Entertainment Design) トークという形で、カナダのバンクーバーで毎年開催されるプレゼンテーションを、インターネット上に無料動画として、公開されているので、見たことがある人も多いでしょう。「ideas worth spreading」のコンセプトのもと、医学から芸術まで、多岐にわたって、非常に素晴らしい内容がそろっていて、しかも、英語のスピーチで、勉強ができるので、満足感が大変高いです。私のお勧めは、フランス・ドゥ・ヴァール「動物にモラルはある? : ですが、今回は、ヨット部の夏部報なので、エレン・マッカーサーの「ヨットでひらめいた循環型経済」というプレゼンテーションを紹介します。エレン・マッカーサーは、「単独ヨット最速世界一周の業績により、2005 年最年少の 28 歳で、英国のナイトの称号を与えられています。彼女は、ヨットの上で感じた「物は限りある」ということの意味を考えるようになり、ヨットを降りた後、「循環型経済 (サーキュラー・エコノミー)」の勉強を始め、「エレン・マッカーサー財団」を設立し、その普及に努めるようになります。千葉大学でも、「環境マネジメントシステム」が単位化され、全学部・学科の学生が履修することができ、環境 ISO 学生委員として 1 年間活動すると、「環境エネルギーマネジメント実務士」資格が得られるなど、素晴らしい活動をされているので、循環型経済の理念と千葉大学の環境 ISO 活動はつながっていると思いました。下田屋毅さんという人が、日本の大学、企業と「エレン・マッカーサー財団」のつながりを見ると、Web ニュースに書いてありましたので、どこかで、連携できるといいのかもしれない。

さて、皆さんは、ヨットで何かひらめきましたか? 私自身の場合の答えは、無理やりなところがありますが、「バランスをとること」の重要性を学びました。ヨットでは、ヒールさせすぎても、アンヒールさせすぎても、だめで、フラットにして走らせることを学びました。同様に、練習メニューにしても、廻航練習、セーリング練習、艇のメンテナンス、チューニングをバランスよく行うこと、などを学びました。これは、現在の専門分野にも生きていて、脳と心の健康において、バランスをとることの重要性を研究しています。やはり、ヨットをやるとういことがあります。皆さんの安全と健闘を願っています。

タネよ！ 大きく育て！

齊藤 威 総監督

今年の入学式。この3月徳久学長から千葉大学ジェネラルサポーターに任命され、千葉大のことを広く詳しく多くの方に知っていただくのがお役目となりましたので、早速千葉ポートアリーナでの入学式に出席してみました。多くの一年生が輝いていました。

そして式典が始まり、徳久学長が告示を述べられました。

大学は“学びの場”であり、大学は全面的に支援する。

今社会では創造性と活力が求められている。

コミュニケーション能力の向上を図ることが大事。

そして知性と教養を高めてほしい。

自分の才能に気づいてほしい。

何事にも積極的に。大学は“探求の場”でもある。

引き続きの第二部ではメッセージを述べられました。

大学での過ごし方について、是非やってほしいこと。

1、 自分の道を見つけること。資格付きの学部だから決まっているとは限らない。

(朝日新聞社社長(千葉大卒)の例を紹介)

2、 知性と教養を高めること。

(日々日常の大学生活の中で高めることができる。教科書はない。)

① 人を介してしか学べない。クラブ活動で見つけることができる。

② 読書で学べ。歴史的淘汰を経た本で。孔子、孟子、キリストに学べ。

③ 英会話は必須。グローバルコミュニケーションのツールとして必須。

自転車と同じで、若ければ苦も無く身につくもの。

そのためにもアクティブな学生生活を。

ただし、社会規範に反するマイナスの努力は厳禁。

まずは自分に最も適したクラブを選ぶこと。

1年生の時にに入ったクラブで4年間で、将来が決まるといっても過言ではない。

私の選んだクラブは大変満足いくものであった。

(今年は「ヨット部」の言葉はありませんでした。)

以上徳久学長から力強いメッセージが新入生に送られましたが、学長に限らず誰もが大学生生活は人生において最も大事な時期であることと認識しています。私もそう思いますし、そうでした。思うに花にたとえれば大学生とはちょうどタネが地面に撒かれた時期ではないかと思えます。

親から生まれ育てられ(つぼみが開花し)そして大学生になりました(実がなりました)。いよいよ親から離れてこれからは自分で自分の道を築き歩いていくこととなります(実が熟れ地面に落

ちて芽を出し双葉を開きます)。このとき芽が出てしっかり育つためには何が必要でしょうか。どのような環境が整わないと、整えないといけないのでしょうか。

まずは芽を出せる与えられた環境が必要ではないかと思います。それは発芽温度で、温かくなると芽が出てすくすく育ちます。このことは徳久学長が述べている周りの方々、特に部活で知り合った先輩や同期生、下級生のぬくもりではないでしょうか。人を介して、人と人との交わりの中で、熱い友情の中でタネが温められ芽を出すのではないのでしょうか。

次には出た芽が双葉になり成長していくには水と栄養が必要です。これは自らが求めていく生育環境ではないでしょうか。タネには親に蓄えてもらった養分がありますが、根を張りだした時から水求めて、栄養分を求めて根を張っていかねばなりません。時によっては幸運にもすぐ近くに水と養分があり、あまり根を張らなくても育っていくことができるかもしれませんが、それで満足していたのでは近くの水や養分が枯渇したらすぐに死んでしまいますし、大風が吹いたら倒れてしまいます。どんどんどんどん先の先まで根を張っていくことが大事です。つまり大学生時代にしっかりとした考えを持ち、しっかりと体と心を鍛え、しっかりと勉強し知識と教養を高めることかと思えます。

このように人生を花にたとえ、大学生をタネにたとえ、今この時期を大事に過ごしましょう。ヨット部生活は皆さんにとってかけがえのない学生生活です。自らが部活を充実し、それをみんなで共有しましょう。今年も東医体の優勝奪還を目指して頑張りましょう。

ちなみに、私はヨット部の時、下級生から“タネやん”というありがたいあだ名をもらいました。



今年度千葉大学全学医学部ヨット部合同での新歓コンパの様子
今年も多くの新入生が入部してくれました。

新入部員の言葉

2016年度新歓コンパにて、医学部ヨット部の方では、6名（男子4名、女子2名）の新入生が入部いたしました。

夏まではまだまだヨットに乗る機会は多くはないものの、ヨットという新しい競技をどんどん吸収していき、これからの益々の成長に期待しております。

これから先もますます大きくなっていくヨット部の原動力となっていってくれると思います。それでは新入部員たちの挨拶です。

鵜梶 真衣（桜蔭）

先輩方に御指導頂きながら、同輩達と共に5年間全力でヨットを楽しみたいと思います。頑張ります！

逢坂 太郎（海城）

海城高校出身、逢坂太郎です。

ヨット部に入ってまだ2ヶ月程度で、まだまだヨットのことはわかりませんが、先輩方のように上手く、強くなれるように頑張りたいと思います。

翁 悠介（聖光学院）

苦しいことも楽しいこともあるかと思いますが、これから先6年間仲間とともに頑張っていこうと思います。

小関 遥（筑波大附属）

1年の小関遥です。まずはテンドーから誠実に働き、学びます。よろしくお願いいたします。

埴 夕稀子（東邦大東邦）

今はまだ出来ないことばかりで難しいことも多いですが、沢山練習して、早く上達できるように頑張ります。

渡邊 怜（駒場東邦）

まだヨットのことはよくわかりませんが、6年間辛いことも楽しいことも頑張っていきます。よろしくお願いいたします。

2016年 東医体レースメンバー紹介

今年も、医学部ヨット部の最大の大会である東日本医科学学生総合体育大会（東医体）が近づいてきました。本戦は、8/5～8/7に、江の島ヨットハーバーにて行われる予定です。6日と7日には観覧艇も出航致しますので、是非、レースの応援にいらしてください。

レースメンバー：5年生5名、3年生5名、2年生1名、セールナンバー：4581.4486.4413で出場します。



レースメンバー全11名
@江の島ヨットハーバー

左から順に、
石原、林、駒井、高橋、
和田、長久保、千葉、
島田、佐藤、中島、凌

それでは今年のレースメンバーの挨拶です。

スキッパー

長久保 源太

4413スキッパー長久保源太です。レースメンバー全員が満足 of いくような最後となるようにキャプテンとして支持、牽引しながら東医体優勝を目指します！応援宜しくお願い致します。

石原 慶

個人・団体ともに優勝目指して頑張ります！応援よろしくお祈いします！

駒井 佑哉

五年間の集大成として悔いの残らないレースをします。今年こそ団体優勝したいので、応援よろしくお祈いします！

島田 遼

総勢11名という過去最大の人数で、大所帯ならではの楽しさ・辛さ全てを胸に東医体へ挑みたいと思います!!

応援のほど、どうぞよろしくお祈いいたします。

中島 理子

いつもサポートありがとうございます！応援に応えられるよう頑張ります！

クルー

佐藤 玲子

初めての東医体、精一杯頑張りたいと思います！応援よろしくお願い致します。

高橋 誠志郎

悔いの残らないように精一杯頑張ります。応援よろしくお願い致します。

林 亮佑

スキッパーとよくコミュニケーションを取りながらベストな走りをして、千葉大学のスピンを一番に掲げられるように頑張ります。応援よろしくお祈りします。

凌 将登

今年はレーメンということで去年にも増して精一杯頑張らせて頂きますので、応援よろしくお祈りします

和田 七海

クルー最後の年、クルー最後の東医体を、全力を尽くしてのぞみたいと思います。応援よろしくお祈りします。

千葉 えみり

東医体で優勝できるようにレースメンバー全員で精一杯頑張ります。応援よろしくお祈り致します。

医学部ヨット部の夏の日程

8/3～8/7 東医体（江の島ヨットハーバー）

8/3 プレレース

8/4 女子レース

8/5～8/7 本戦（7日に引退式・幹部交代式）

8/9～8/11 関東医科歯科学生ヨットレース（江の島ヨットハーバー）

8/9 プレレース

8/10～8/11 本戦

8/17～8/19 稲毛合宿（稲毛ハーバー）：1年クルー・2年スキッパー養成合宿

2016年度 現役部員名簿

部長	清水 栄司教授	4年	阿部 照	2年	榎並 奏
6年	山本 大基	主将兼主務	遠藤 雄二		篠原 雅貴
	石坂 昌太郎	会計	生嶋 光		志村 和佳
	小川 美咲		西川 侑成		辻本 慈瑛
	西織 浩信		廣川 友美		村田 桜子
	古谷 誠		張本 英男		八木 はるか
	浦野 亮	3年	佐藤 玲子	1年	鶴梶 真衣
5年	長久保源太		高橋 誠志郎		逢坂 太郎
	大和田彩夏		林 亮佑		翁 悠介
	石原 慶		凌 将登		小関 遥
	駒井 佑哉		和田 七海		塙 夕稀子
	島田 遼	2年	千葉 えみり		渡邊 怜
	中島 理子				
	相原 優美				

あとがき

現在私達千葉大学医学部ヨット部は、東医体優勝に向けての夏の合宿期間に入りました。

今年は3月に待望の新艇（セイルナンバー4581）を納艇いたしました。より一層の練習環境が整い、ここまで練習してまいりました。このように、整った環境で活動を行うことができるのも、日頃からの諸先生方の御支援御協力のおかげと、大変感謝しております。

今年の夏も、先生方には是非良いご報告ができますよう部員一同精一杯頑張ってみようと思いますので、今後とも温かいご声援をどうぞよろしくお願い致します。

9月には稲毛ヨットハーバーにてOBレースを予定しております。詳細は追ってご連絡させていただきます。ご多忙の折とは存じますが、多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます。

私たちの活動状況・レース結果などは、ヨット部のホームページにも掲載しております。また、最近ではFacebookなどのSNSも使って日々の部活動の様子を伝えておりますので、お時間のある際には、是非ご覧になってみて下さい。

ホームページ：<http://chibamedyacht10.web.fc2.com/>

編集後記

千葉大学医学部ヨット部夏の部報もおかげさまで第28版を迎えることができました。今回の発行にあたり、寄稿して頂いた先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。冬には、夏の大会の結果を載せた部報を発行したいと考えています。先生方に良い結果をご報告できるよう頑張りますので、是非夏の東医体・関東医科歯科戦に注目しててください。

4年主務 遠藤雄二